

1コリ1:1 神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、
1コリ1:2 コリントにある神の教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。イエス・キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。
1コリ1:3 わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。
1コリ1:4 わたしは、あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。
1コリ1:5 あなたがたはキリストに結ばれ、あらゆる言葉、あらゆる知識において、すべての点で豊かにされています。
1コリ1:6 こうして、キリストについての証しがあなたがたの間で確かなものとなったので、
1コリ1:7 その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。
1コリ1:8 主も最後まであなたがたをしっかりと支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしていただきます。
1コリ1:9 神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。
1コリ1:10 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心一つにし思い一つにして、確く結び合いなさい。
1コリ1:11 わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。
1コリ1:12 あなたがたはめいめい、“わたしはパウロにつく”“わたしはアポロに”“わたしはケファに”“わたしはキリストに”などと言いつけているとのことです。
1コリ1:13 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。
1コリ1:14 クリスポとガイオ以外に、あなたがたのだれにも洗礼を授けなかったことを、わたしは神に感謝しています。
1コリ1:15 だから、わたしの名によって洗礼を受けたなどと、だれも言えないはずですよ。
1コリ1:16 もっとも、ステファナの家の人たちにも洗礼を授けましたが、それ以外はだれにも授けた覚えはありません。
1コリ1:17 なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまうように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。
1コリ1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。
1コリ1:19 それは、こう書いてあるからです。“わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。”
1コリ1:20 知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。
1コリ1:21 世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっていません。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。
1コリ1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、
1コリ1:23 わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまづかせるもの、異邦人には愚かなものですが、
1コリ1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。
1コリ1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。
1コリ1:26 兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。
1コリ1:27 ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。
1コリ1:28 また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。
1コリ1:29 それは、だれ一人、神の前で誇ることはないようにするためです。
1コリ1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、

義と聖と贖いとなられたのです。

1コリ1:31 “誇る者は主を誇れ”と書いてあるとおりになるためです。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ2:1 兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた契約を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。

1コリ2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

1コリ2:3 そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。

1コリ2:4 わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、`霊'と力の証明によるものでした。

1コリ2:5 それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

1コリ2:6 しかし、わたしたちは、信仰に成熟した人たちの間では知恵を語ります。それはこの世の知恵ではなく、また、この世の滅びゆく死は医者たちの知恵でもありません。

1コリ2:7 わたしたちが語るの、隠されていた。神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。

1コリ2:8 この世の死は医者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

1コリ2:9 しかし、このことは、“目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された”と書いてあるとおりです。

1コリ2:10 わたしたちには、神が`霊'によってそのことを明らかに示してくださいました。`霊'は一切のことを、神の深見さえも究めます。

1コリ2:11 人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。

1コリ2:12 わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。

1コリ2:13 そして、わたしたちがこれについて語るのも、人の知恵に教えらえた言葉によるのではなく、`霊'に教えられた言葉によっています。つまり、霊的なものによって霊的なことを説明するのです。

1コリ2:14 自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。

1コリ2:15 霊の人は一切を判断しますが、その人自身はだれからも判断されたりしません。

1コリ2:16 “だれが主の思いを知り、主を教えるというのか。”しかし、わたしたちはキリストの思いを抱いています。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ3:1 兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。

1コリ3:2 わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い者を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。

1コリ3:3 相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる。ということになりはしませんか。

1コリ3:4 ある人が“わたしはパウロにつく”と言い、他の人が“わたしはアポロに”などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。

1コリ3:5 アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。

1コリ3:6 わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。

1コリ3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

1コリ3:8 植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の法主を受け取ることになります。

1コリ3:9 わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

1コリ3:10 わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。そして、他の人がその植えの家を建てています。ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。

1コリ3:11 イエス・キリストというすでに据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。

1コリ3:12 この土台の植えに、だれかが金、銀、宝石、木、草、わらで家を建てる場合、

1コリ3:13 おのおのの仕事は明るみに出されます。かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。

1コリ3:14 だれかがその土台の上に建てた仕事が残れば、その人は報いを受けますが、

1コリ3:15 燃え尽きてしまえば、損害を受けます。ただ、その人は、火の中をくぐり抜けて来た者のように、救われます。

1コリ3:16 あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。

1コリ3:17 神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。

1コリ3:18 だれも自分を欺いてはなりません。もし、あなたがたのだれかが、自分はこの世で知恵のある者だと考えているなら、本当に知恵のある者となるために愚かな者になりなさい。

1コリ3:19 この世の知恵は、神の前では愚かなものだからです。“神は、知恵のある者たちをその悪賢さによって捕らえられる”と書いてあり、

1コリ3:20 また、“主は知っておられる、知恵のある者たちの議論がむなしいことを”とも書いてあります。

1コリ3:21 ですから、だれも人間を誇ってはなりません。すべては、あなたがたのものです。

1コリ3:22 パウロもアポロもケファも、世界も生も死も、今起こっていることも将来起ることも、一切はあなたがたのもの、

1コリ3:23 あなたがたはキリストのもの、キリストは神のものなのです。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ4:1 こういうわけですから、人はわたしたちをキリストに仕える者、神の秘められた計画をゆだねられた管理者と考えるべきです。

1コリ4:2 この場合、管理者に要求されるのは忠実であることです。

1コリ4:3 わたしにとっては、あなたがたから裁かれようと、人間の法定で裁かれようと、少しも問題ではありません。わたしは、自分で自分を裁くことすらしません。

1コリ4:4 自分には何もやましいところはないが、それでわたしが義とされているわけではありません。わたしを裁くのは主なのです。

1コリ4:5 ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は暗の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります。

1コリ4:6 兄弟たち、あなたがたのためを思い、わたし自身とアポロとに当てはめて、このように述べてきました。それは、あなたがたがわたしたちの例から、“書かれているもの以上に出ない”ことを学ためであり、だれも、一人を持ち上げてほかの一人をないがしろにし、高ぶることがない◆

4,6-1, ことがないようにするためです。

1コリ4:7 あなたをほかの者たちよりも、優れた者としたのは、だれです。いったいあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるでしょうか。もしいただいたのなら、なぜいまだかなかったような顔をして高ぶるのですか。

1コリ4:8 あなたがたは既に満足し、既に大金持ちになっており、わたしたちを抜きにして、勝手に王様になってくれたらと思います。そうしたら、わたしたちも、あなたがたと一緒に王様になれたはずですから。

1コリ4:9 考えてみると、神はわたしたち使徒を、まるで死刑囚のように最後に引き出される者となさいました。わたしたちは世界中に、天使にも人にも、見せ物となったからです。

1コリ4:10 わたしたちはキリストのために愚かな者となっているが、あなたがたはキリストを信じて賢い者となっているが、あなたがたはキリストを信じて賢い者となっています。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊敬されているが、わたしたちは侮辱されています。

1コリ4:11 今の今までわたしたちは、飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もなく、

1コリ4:12 苦勞して自分の手で稼いでいます。侮辱されては祝福し、迫害されては耐え忍び、

1コリ4:13 ののしられては優しい言葉を返しています。今に至るまで、わたしたちは世の屑、すべてのもののかす滓とされています。

1コリ4:14 こんなことを角野は、あなたがたに恥をかかせるためではなく、愛する自分の子供として論ずるためなのです。

1コリ4:15 キリストに導く養育係があなたがたに一万一人いたとしても、父親が大勢いるわけではない。福音を通し、キリスト・イエスにおいてわたしがあなたがたをもうけたのです。

1コリ4:16 そこで、あなたがたに勧めます。わたしに倣う物になりなさい。

1コリ4:17 テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るころのすべての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう。

1コリ4:18 わたしがもう一度あなたがたのところへ行くようなことはないを見て、高ぶっている者がいるそうです。

1コリ4:19 しかし、主の御心であれば、すぐにでもあなたがたのところに行こう。そして、高ぶっている人たちの、言葉ではなく力を見せてもらおう。

1コリ4:20 神の国は言葉ではなく力にあるのですから。

1コリ4:21 あなたがたが望むのはどちらですか。わたしがあなたがたのところへ鞭を持って行くことですか、それとも、愛と柔和な心で行くことですか。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ5:1 現に聞くところによると、あなたがたの間にみだらな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどのみだらな行いで、ある人が父の妻をわがものとしているとのことです。

1コリ5:2 それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。

1コリ5:3 わたしは体では離れていても霊ではそこにいて、現に居合わせて者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。

1コリ5:4 つまり、わたしたちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの力をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり、

1コリ5:5 このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。

1コリ5:6 あなたがたが誇っているのは、よくない。わずかなパン種が練り粉全体を膨らませることを、知らないのですか。

1コリ5:7 いつも新しい練り粉のままにいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。

1コリ5:8 だから、古いパン種の悪意と邪悪のパン種を用いないで、パン種の入っていない、純粹で真実のパンで過越祭を祝おうではありませんか。

1コリ5:9 わたしは以前手紙で、みだらな者と交際してはいけないと書きましたが、

1コリ5:10 その意味は、この世のみだらな者とか強欲な者、また、人の物を奪う物や偶像を礼拝する物たちと一切つきあってはならない、どういうことではありません。もし、そうだとしたら、あなたがたは世の中から出て行かねばならないでしょう。

1コリ5:11 わたしが書いたのは、兄弟と呼ばれる人で、みだらな者、強欲な者、偶像を礼拝する者、人を悪く言う者、酒におぼれる者、人の物を奪う者がいれば、つきあうな、そのような人とは一緒に食事もするな、ということだったのです。

1コリ5:12 外部の人々を裁くことは、わたしの務めでしょうか。内部の人々をこし、あなたがたは裁くべきではありませんか。

1コリ5:13 外部の人々は神がお裁きになります。“あなたがたの中から悪い者を除き去りなさい。”

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ6:1 あなたがたの間で、一人の仲間の者と争いを起こしたとき、聖なる者たちに訴え出ないで義しくない人々に訴え出るようなことを、なぜするのです。

1コリ6:2 あなたがたは知らないのですか。聖なる者たちが世を裁くのです。世があなたがたによって裁かれるはずなのに、あなたがたにはささいな事件すら裁く力がないのですか。

1コリ6:3 わたしたちが天使たちさえ裁く者だということを、知らないのですか。まして、日常の生活にかかわる事は言うまでもありません。

1コリ6:4 それなのに、あなたがたは、日常の生活にかかわる争いが起きると、教会では疎んじられている人たちを裁判官の席に着かせるのですか。

1コリ6:5 あなたがたを恥じ入らせるために、わたしは言っています。あなたがたの中には、巨大を仲裁できるような知恵のある者が、一人もないのですか。

1コリ6:6 兄弟が兄弟を訴えるのですか。しかも信仰のない人々の前で、

1コリ6:7 そもそも、あなたがたの間に裁判ざたがあること事態、既にあなたがたの負けです。なぜ、むしろ不義を甘んじて受けないのです。なぜ、むしろ奪われるままではないのです。

1コリ6:8 それどころか、あなたがたは不義を行い、奪い取っています。しかも、兄弟たちに対してそういうことをしている。

1コリ6:9 義しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけません。みだらな者、偶像を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色をする者、

1コリ6:10 泥棒、強欲な者、酒におぼれる者、人を悪く言う者、人の物を奪う者は、決して神の国を受け継ぐことができません。

1コリ6:11 あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされています。

1コリ6:12 “わたしには、すべておことが許されている。”しかし、すべてのことが益になるわけではない。“わたしには、すべてのおことが許されている。”しかし、わたしは何事にも支配されはしない。

1コリ6:13 食物は腹のため、腹は食物のためであるが、神はそのいずれをも滅ぼされます。体はみだらな行いのためではなく、主のためにあり、主が体のためにおられるのです。

1コリ6:14 神は、主を復活させ、また、その力によってわたしたちをも復活させてくださいます。

1コリ6:15 あなたがたは、自分の体がキリストの体の一部だとは知らないのか。キリストの体の一部を娼婦の体の一部としてもよいのか。決してそうではない。

1コリ6:16 娼婦と交わる者はその女と一つの体となる、ということを知らないのですか。“二人は一体となる”と言われています。

1コリ6:17 しかし、主に結び付く者は主と一つの霊となるのです。

1コリ6:18 みだらな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて体の外にあります。しかし、みだらな行いをする者は、自分の体に対して罪を犯しているのです。

1コリ6:19 知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。

1コリ6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ7:1 そちらから書いてよこしたことについて言えば、男は女に触れない方がよい。

1コリ7:2 しかし、みだらな行いを避けるために、男はめいめい自分の妻を持ち、また、女はめいめい自分の夫を持ちなさい。

1コリ7:3 夫は妻に、その務めを果たし、同様に妻も夫にその務めを果たしなさい。

1コリ7:4 妻は自分の体を意のままにする権利を持たず、夫がそれを持っています。同じように、夫も自分の体を意のままにする権利を持たず、妻がそれを持っています。

1コリ7:5 互いに相手を拒んではいけません。ただ、納得しあつたうえで、専ら祈りに時を過ごすためにしばらく別れ、また一緒になるというならば話は別です。あなたがたが自分を抑制する力がないのに乗じて、サタンが誘惑しないともかぎらないからです。

1コリ7:6 もっとも、わたしは、そうしても差し支えないと言うのであって、そうしなさい、と命じるつもりはありません。

1コリ7:7 わたしとしては、皆がわたしのように独りでいてほしい。しかし、人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います。

1コリ7:8 未婚者とやもめに言いますが、皆わたしのように独りでいるのがよいでしょう。

1コリ7:9 しかし、自分を抑制できなければ結婚しなさい。情欲に身を焦がすよりは、結婚した方がまだからです。

1コリ7:10 更に、既婚者に命じます。妻は夫と別れてはいけません。こう命じるのは、わたしではなく、主です。

1コリ7:11 ーーー既に別れてしまったのなら、再婚せずにいるか、夫のもとに帰りなさい。ーーーまた、夫は妻を離縁してはいけません。

1コリ7:12 その他の人たちに対しては、主ではなくわたしが言うのですが、ある信者に信者でない妻がいて、その妻と一緒に生活が続けたいと思っている場合、彼女を離縁してはいけません。

1コリ7:13 また、ある女に信者でない夫がいて、その夫と一緒に生活が続けたいと思っている場合、彼を離縁してはいけません。

1コリ7:14 なぜなら、信者でない夫は、信者である妻のゆえに聖なる者とされ、信者でない妻は、信者である夫のゆえに聖なる者とされているからです。そうでなければ、あなたがたの子供たちは汚れていることになりませんか、実際には聖なる者です。

1コリ7:15 しかし、信者でない相手が離れていくな、去るにまかせなさい。こうした場合に真はは、夫であろうと妻であろうと、結婚に縛られてはいけません。平和な生活を送るようにと、神はあなたがたを召されたのです。

1コリ7:16 妻よ、あなたは夫を救えるかどうか、どうして分かるのか。夫よ、あなたは妻を教えるかどうか、どうして分かるのか。

1コリ7:17 おのおの主から分け与えられた分に応じ、それぞれ神に召されたときの身分のままで歩みなさい。これは、すべての教会でわたしが命じていることです。

1コリ7:18 割礼を受けている者が召されたのなら、割礼の跡を無くそうとしてはいけません。割礼を受けていない者が召されたのなら、割礼を受けようとしてはいけません。

1コリ7:19 割礼の有無は問題ではなく、大切なのは神の掟を守ることです。

1コリ7:20 おのおの召されたときの身分にとどまっていなさい。

1コリ7:21 召されたときに奴隷であった人も、そのことを気にしてはいけません。自由の身になることができるとしても、むしろそのままいなさい。

1コリ7:22 というのは、主によって召された奴隷は、主によって自由の身にされた者だからです。同様に、主によって召された自由な身分の者は、キリストの奴隷なのです。

1コリ7:23 あなたがたは、身代金を払って買い取られたのです。人の奴隷となっははいけません。

1コリ7:24 兄弟たち、おのおの召されたときの身分のまま、神の前にとどまっていなさい。

1コリ7:25 未婚の人たちについて、わたしは主の指示を受けてはいませんが、主の憐れみにより信任を得ている者として、意見を述べます。

1コリ7:26 今危機が迫っている状態にあるので、こうするのがよいとわたしは考えます。つまり、人は現状にとどまっているのがよいのです。

1コリ7:27 妻と結ばれているなら、そのつながりを解こうとせず、妻と結ばれていないなら妻を求めてはいけません。

1コリ7:28 しかし、あなたが、結婚しても、罪を犯すわけではなく、未婚の女が結婚しても、罪を犯したわけではありません。ただ、結婚する人たちはその身に苦勞を負うことになるでしょう。わたしは、あなたがたにそのような苦勞をさせたくないのです。

1コリ7:29 兄弟たち、わたしはこう言いたい。定められた時は迫っています。今からは、妻のある人はない人のように、

1コリ7:30 泣く人は泣かない人のように、喜ぶ人は喜ばない人のように、物を買う人は持たない人のように、

1コリ7:31 世の事にかかわっている人は、かかわりのない人のようにすべきです。この世の有様は過ぎ去るからです。

1コリ7:32 思い煩わないでほしい。独身の男は、どうすれば主に喜ばれるかと、主のことに心を遣いますが、

1コリ7:33 結婚している男は、どうすれば妻に喜ばれるかと、世の事に心を遣い、

1コリ7:34 心が二つに分かれてしまいます。独身の女や未婚の女は、体も霊も聖なる者になろうとして、主のことに心を遣いますが、結婚している女は、どうすれば夫に喜ばれるかと、世の事に心を遣います。

1コリ7:35 このようにわたしが言うのは、あなたがたのためを思っでのことです、決してあなたがたを束縛するためではなく、品位のある生活をさせて、ひたすら主に仕えさせるためなのです。

1コリ7:36 もし、ある人が自分の相手である娘に対して、情熱が強くなり、その誓いにふさわしくないふるまいをしかねないと感じ、それ以上自分を抑制できないと思うなら、思いどおりにしなさい。罪を犯すことにはなりません。二人

は結婚しなさい。

1コリ7:37 しかし、心にしっかりした新年を持ち、無理に思いを抑えつけたりせずに、相手の娘をそのままにしておこうと決心した人は、そうしたらよいでしょう。

1コリ7:38 要するに、相手の娘と結婚する人はそれで差し支えありませんが、結婚しない人の方がもっとよいのです。

1コリ7:39 妻は夫が生きている間は夫に結ばれていますが、夫が死ねば、望む人と再婚してもかまいません。ただし、相手は主に結ばれている者に限ります。

1コリ7:40 しかし、わたしの考えによれば、そのままにいる方がずっと幸福です。わたしも神の霊を受けていると思います。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ8:1 偶像に供えられた肉について言えば、“我々は皆、知識を持っている”ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。

1コリ8:2 自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。

1コリ8:3 しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。

1コリ8:4 そこで、偶像に供えられた肉を食べることについてですが、世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています。

1コリ8:5 現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものもいても、

1コリ8:6 わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。

1コリ8:7 しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人たちは、今までの偶像になじんできた習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良心が弱いために汚されるのです。

1コリ8:8 わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。

1コリ8:9 ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。

1コリ8:10 知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。

1コリ8:11 そうなると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。

1コリ8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。

1コリ8:13 それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ9:1 わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たで花井か。あなたがたは、主のためにわたしが働いて得た成果ではないか。

1コリ9:2 他の人たちにとってわたしは使徒でないにしても、少なくともあなたがたにとっては使徒なのです。あなたがたは主に結ばれており、わたしが使徒であることの生きた証拠だからです。

1コリ9:3 わたしを批判する人たちには、こう弁明します。

1コリ9:4 わたしたちは、食べたり、飲んだりする権利が全くないのですか。

1コリ9:5 わたしたちには、他の使徒たちや主の兄弟たちやケファのように、真はである妻を連れて歩く権利がないのですか。

1コリ9:6 あるいは、わたしとバルナバだけには、生活の資を得るための仕事をしなくてもよいという権利がないのですか。

1コリ9:7 そもそも、いったいだれか自費で戦争に行きますか。ぶどう畑を作って、その実を食べない者がいますか。羊の群れを飼って、その乳を飲まない者がいますか。

1コリ9:8 わたしがこう言うのは、人間の思いからでしょうか。律法も言っているではないですか。

1コリ9:9 モーセの律法に、“脱穀している牛に口籠をはめてはならない”と書いてあります。神が心にかけておられるのは、牛のことですか。

1コリ9:10 それとも、わたしたちのために言っておられるのでしょうか。もちろん、わたしたちのためにそう書かれているのです。耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分け前にあずかることを期待して働くのは当然です。

1コリ9:11 わたしたちがあなたがたに霊的なものを蒔いたのなら、あなたがたから肉のものを刈り取ることは、行き過ぎでしょうか。

1コリ9:12 他の人たちが、あなたがたに対するこの権利を持っているとすれば、わたしたちはなおさらそうではありませんか。しかし、わたしたちはこの権利を用いませんでした。かえってキリストの福音を少しでも妨げてはならないと、すべてを耐え忍んでいます。

1コリ9:13 あなたがたは知らないのですか。神殿で働く人たちは神殿から下がる物を食べ、祭壇に仕える人たちは祭壇の供え物の分け前にあずかります。

1コリ9:14 同じように、主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の資を得るようにと、指示されました。

1コリ9:15 しかし、わたしはこの権利を何一つ利用したことはありません。こう書いたのは、自分もその権利を利用したいからではない。それくらいなら、死んだ方がましです・・・だれも、わたしのこ誇りを無意味なものにしてはならない。

1コリ9:16 もっとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしお誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです。

1コリ9:17 自分からそうしているなら、報酬を得るでしょう。しかし、強いられてするなら、それは、ゆだねられている務めなのです。

1コリ9:18 では、わたしの報酬とは何でしょうか。それは、福音を告げ知らせるときにそれを無報酬で伝え、福音を伝えるわたしが当然持っている権利を用いないということです。

1コリ9:19 わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。

1コリ9:20 ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、わたし自身はそうではないのですが、律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。

1コリ9:21 また、わたしは神の律法を持っていないわけではなく、キリストの律法に従っているのですが、律法を持たない人に対しては、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。

1コリ9:22 弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。

1コリ9:23 福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に備えにあずかる者となるためです。

1コリ9:24 あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。

1コリ9:25 競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。

1コリ9:26 だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。

1コリ9:27 むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ10:1 兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、

1コリ10:2 皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、

1コリ10:3 皆、同じ靈的な食物を食べ、

1コリ10:4 皆が同じ靈的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た靈的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったのです。

1コリ10:5 しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒野で滅ぼされてしまいました。

1コリ10:6 これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために、

1コリ10:7 彼らの中のある者がしたように、偶像を礼拝してはいけません。“民は座って飲み食いし、立って踊り狂った”と書いてあります。

1コリ10:8 彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしましょう。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。

1コリ10:9 また、彼らの中のある者がしたように、キリストを試みないようにしましょう。試みた者は、蛇にかまれて滅びました。

1コリ10:10 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言うてはいけません。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。

1コリ10:11 これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。

1コリ10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

1コリ10:13 あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

1コリ10:14 わたしの愛する人たち、こういうわけですから、偶像礼拝を避けなさい。

1コリ10:15 わたしはあなたがたを分別ある者と考えて話します。わたしの言うことを自分で判断しなさい。

1コリ10:16 わたしたちが神を讃美する讃美の杯はキリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂く派nは、キリストの体にあずかることではないか。

1コリ10:17 パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つお体です。皆が一つの派nを分けて食べるからです。

1コリ10:18 肉によるイスラエルの人々のことを考えてみなさい。供え物を食べる人は、それが供えてあった祭壇とかかわる者になるのではありませんか。

1コリ10:19 わたしは何を言おうとしているのか。偶像に供えられた肉が何か意味を持つということでしょうか。それとも、偶像が何か意味を持つということでしょうか。

1コリ10:20 いや、わたしが言おうとしているのは、偶像に捧げる供え物は、神ではなく悪霊に捧げている、という点なのです。わたしは、あなたがたに悪霊の仲間になってほしくありません。

1コリ10:21 主の杯と悪霊の杯の両方を飲むことはできないし、主の食卓と悪霊の食卓の両方に着くことはできません。

1コリ10:22 それとも、主にねたみを起こさせるつもりなのですか。わたしたちは、主より強い者でしょうか。

1コリ10:23 “すべてのことが許されている。”しかし、すべてのことが益になるわけではない。“すべてのことが許されている。”しかし、すべてのことがわたしたちを造り上げるわけではない。

1コリ10:24 だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。

1コリ10:25 市場で売っているものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。

1コリ10:26 “地とそこに満ちているものは、主のもの”だからです。

1コリ10:27 あなたがたが、信仰を持っていない人から正体され、それに応じる場合、自分の前に出されるものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。

1コリ10:28 しかし、もしだれかがあなたがたに、“これは偶像に供えられた肉です”と言うなら、その人のため、また、良心のために食べてはいけません。

1コリ10:29 わたしがこの場合、“良心”と言うのは、自分の良心ではなく、そのように言う他人の良心によって左右されることがあります。

1コリ10:30 わたしが感謝して食べているのに、そのわたしが感謝しているものについて、なぜ悪口を言われるわけがあるのです。

1コリ10:31 だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。

1コリ10:32 ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。

1コリ10:33 わたしも人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求めて、すべての点ですべての人を喜

ばそうとしているのですから。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ11:1 わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

1コリ11:2 あなたがたが、何かにつけわたしを思い出し、わたしがあなたがたに伝えたとおりに、伝えられた教えを守っているのは、立派だと思います。

1コリ11:3 ここであなたがたに知っておいてほしいのは、すべての男の頭はキリスト、女の頭は男、そしてキリストの頭は神であるということです。

1コリ11:4 男はだれでも祈ったり、預言したりする際に、頭に物をかぶるなら、自分の頭を侮辱することになります。

1コリ11:5 女はだれでも祈ったり、預言したりする際に、頭に物をかぶらないなら、その頭を侮辱することになります。それは、髪の毛をそり落としたのと同じだからです。

1コリ11:6 女が頭に物をかぶらないなら、髪の毛を切ってしまいなさい。女にとって髪の毛をを切ったり、そり落としたりするのが恥ずかしいことなら、頭に物をかぶるべきです。

1コリ11:7 男は神の姿と栄光を映す者ですから、頭に物をかぶるべきではありません。しかし、女は男の栄光を映す者です。

1コリ11:8 というのは、男が女から出て来たのではなく、女が男から出て来たのだし、

1コリ11:9 男が女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。

1コリ11:10 だから、女は天使たちのために、頭に力の印をかぶるべきです。

1コリ11:11 いずれにせよ、主においては、男なしに女はなく、女なしに男はありません。

1コリ11:12 それは女が男から出たように、男も女から生まれ、また、すべてのものが神から出ているからです。

1コリ11:13 自分で判断しなさい。女が頭に何もかぶらないで神に祈るのが、ふさわしいかどうか。

1コリ11:14 男は長い髪が恥であるのに対し、女は長い髪が誉れとなることを、自然そのものがあなたがたに教えていないのでしょうか。長い髪は、かぶり物の代わりに女に与えられているのです。

1コリ11:16 この点について異論を唱えたい人がいるとしても、そのような習慣は、わたしたちにも神の教会にもありません。

1コリ11:17 次のことを指示するにあたって、わたしはあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが、良い結果よりは、むしろ悪い結果を招いているからです。

1コリ11:18 まず第一に、あなたがたが教会で集まる際、お互いの間に仲間割れがあると聞いています。わたしもある程度そういうことがあるかと思えます。

1コリ11:19 あなたがたの間で、だれが適格者かははっきりするためには、仲間争いも避けられないかもしれません。

1コリ11:20 それでは、一緒に集まっても、主お晚餐を食べることにならないのです。

1コリ11:21 なぜなら、食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいるという始末だからです。

1コリ11:22 あなたがたは、飲んだり食べたりする家がないのですか。それとも、神の教会を見くびり、貧しい人々に恥をかかせようというのですか。わたしはあなたがたに何と言ったらよいのだろう。ほめることにしようか。この点については、ほめるわけにはいきません。

1コリ11:23 わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、

1コリ11:24 感謝の祈りをささげてそれを裂き、“これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい”と言われました。

1コリ11:25 また、食事の後で、杯も同じようにして、“この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい”と言われました。

1コリ11:26 だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

1コリ11:27 従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。

1コリ11:28 だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。

1コリ11:29 主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです。

1コリ11:30 そのため、あなたがたの間に弱い者や病人がたくさんおり、多くの者が死んだのです。

1コリ11:31 わたしたちは、自分をわきまえていれば、裁かれはしません。

1コリ11:32 裁かれるとすれば、それは、わたしたちが世と共に罪に定められることがないようにするための、主の懲らしめなのです。

1コリ11:33 わたしの兄弟たち、こういうわけですから、食事のために集まる時には、互いに待ち合わせなさい。

1コリ11:34 空腹の人は、家で食事を済ませなさい。裁かれるために集まる、というようなことにならないために。その他のことについては、わたしがそちらに行ったときに決めましょう。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ12:1 兄弟たち、霊的な賜物については、次のことはぜひ知っておいてほしい。

1コリ12:2 あなたがたがまだ異教徒だったころ、誘われるままに、ものの言えない偶像のもとに連れて行かれたことを覚えているでしょう。

1コリ12:3 ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも“イエスは神から見捨てられよ”とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも“イエスは主である”とは言えないのです。

1コリ12:4 賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。

1コリ12:5 務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。

1コリ12:6 働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。

1コリ12:7 一人一人に‘霊’の働きが現れるのは、全体の益となるためです。

1コリ12:8 ある人には‘霊’によって知恵の言葉、ある人には同じ‘霊’によって知識の言葉が与えられ、

1コリ12:9 ある人にはその同じ‘霊’によって信仰、ある人にはこの唯一の‘霊’によって病気をいやす力、

1コリ12:10 ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。

1コリ12:11 これらすべてのことは、同じ唯一の‘霊’の働きであって、‘霊’は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。

1コリ12:12 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。

1コリ12:13 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。

1コリ12:14 体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。

1コリ12:15 足が、“わたしは手ではないから、体の一部分ではない”と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。

1コリ12:16 耳が、“わたしは目ではないから、体の一部ではない”と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。

1コリ12:17 もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。

1コリ12:18 そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。

1コリ12:19 すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。

1コリ12:20 だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。

1コリ12:21 目が手に向かって“お前は要らない”とは言えず、また、頭が足に向かって“お前たちは要らない”とも言えません。

1コリ12:22 それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。

1コリ12:23 容? わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようと、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようとします。

1コリ12:24 見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。

1コリ12:25 それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。

1コリ12:26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

1コリ12:27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

1コリ12:28 神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。

1コリ12:29 皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。

1コリ12:30 皆が病気をいやす賜物を持っているだろうか。皆が異言を語るだろうか。皆がそれを解釈するだろうか。

1コリ12:31 あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるように熱心に努めなさい。そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ13:1 たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。

1コリ13:2 たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。

1コリ13:3 全財産を貧しい人々のために使い尽くしても、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

1コリ13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

1コリ13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

1コリ13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

1コリ13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

1コリ13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

1コリ13:9 わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

1コリ13:10 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

1コリ13:11 幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた、

1コリ13:12 わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。

1コリ13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ14:1 愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい。

1コリ14:2 異言を語る者は、人に向かってではなく、神に向かって語っています。それはだれにも分かりません。彼は霊によって神秘を語っているのです。

1コリ14:3 しかし、預言する者は、人に向かって語っているので、人を造り上げ、励まし、慰めます。

1コリ14:4 異言を語る者が自分を造り上げるのに対して、預言する者は教会を造り上げます。

1コリ14:5 あなたがた皆が異言を語れるにこしたことはないと思いますが、それ以上に、預言できればと思います。異言を語る者がそれを解釈するのでなければ、教会を造り上げるためには、預言する者の方がまさっています。

1コリ14:6 だから兄弟たち、わたしがあなたがたのところに行って異言を語ったとしても、啓示か知識か預言か教えかによって語らなければ、あなたがたに何の役に立つでしょう。

1コリ14:7 笛あれ堅琴であれ、命のない楽器も、もしその劣に変化がなければ、何を吹き、何を弾いているのか、どうして分かるでしょう。

1コリ14:8 ラッパがはっきりした音を出さなければ、だれが戦いの準備をしますか。

1コリ14:9 同じように、あなたがたも異言で語って、明確な言葉を口にしなければ、何を話しているか、どうして分かってもらえましょう。空に向かって語ることになるからです。

1コリ14:10 世にはいろいろな種類の言葉があり、どれ一つ意味を持たないものはありません。

1コリ14:11 だから、もしその言葉の意味が分からないとなれば、話し手にとってわたしは外国人であり、わたしにとってその話し手も外国人であることとなります。

1コリ14:12 あなたがたの場合も同じで、霊的な賜物を熱心に求めているのですから、教会を造り上げるために、それをますます豊かに受けるように求めなさい。

1コリ14:13 だから、異言を語る者は、それを解釈できるように祈りなさい。

1コリ14:14 わたしが異言で祈る場合、それはわたしの霊が祈っているのですが、理性は実を結びません。

1コリ14:15 では、どうしたらよいのでしょうか。霊で祈り、理性でも祈ることにしましょう。霊で讚美し、理性でも讚美することにしましょう。

1コリ14:16 さもなければ、仮にあなたが霊で讚美の祈りを唱えても、教会に来て間もない人は、どうしてあなたの感謝に“アーメン”と言えるでしょうか。あなたが何を行っているのか、彼には分からないからです。

1コリ14:17 あなたが感謝するのは決行ですが、そのことで他の人が造り上げられるわけではありません。

1コリ14:18 わたしは、あなたがたのだれよりも多くの異言を語れることを、神に感謝します。

1コリ14:19 しかし、わたしは他の人たちをも教えるために、教会では異言で一万の言葉を語るより、理性によって五つの言葉を語る方をとります。

1コリ14:20 兄弟たち、物の判断については子供となつてはいけません。悪事については幼子となり、物の判断については大人になってください。

1コリ14:21 律法にこう書いてあります。“‘異国の言葉を語る人々によって、異国の人々の唇でわたしはこの民に語るが、それでも、彼らはわたしに耳を傾けないだろう’と主は言われる。”

1コリ14:22 このように、異言は、信じる者のためではなく、信じていない者のためのしるしですが、預言は、信じていない者のためではなく、信じる者のためのしるしです。

1コリ14:23 容? 教会全体が一緒に集まり、皆が異言を語っているところへ、教会に来て間もない人が信者でない人が入って来たら、あなたがたのことを気が変だとは言わないでしょうか。

1コリ14:24 反対に、皆が預言しているところへ、信者でない人が、教会に来て間もない人が入って来たら、彼は皆から非を悟らされ、皆から罪を指摘され、

1コリ14:25 心の内に隠していたことが明るみに出され、結局、ひれ伏して神を礼拝し、“まことに、神はあなたがたの内におられます”と皆の前で言い現すことになるでしょう。

1コリ14:26 兄弟たち、それではどうすればよいだろうか。あなたがたは集まったとき、それぞれ詩編の歌をうたい、教え、啓示を語り、異言を語り、それを解釈するのですが、すべてあなたがたを造り上げるためにすべきです。

1コリ14:27 異言を語る者がいれば、二人かせいぜい三人が順番に語り、一人に解釈させなさい。

1コリ14:28 解釈する者がいなければ、教会では黙っていて、自分自身と神に対して語りなさい。

1コリ14:29 預言する者の場合は、二人か三人が語り、他の者たちはそれを検討しなさい。

1コリ14:30 座っている他の人に啓示が与えられたら、先に語りだしていた者は黙ちなさい。

1コリ14:31 皆が共に学び、皆が共に励まされるように、一人一人が皆、預言できるようにしなさい。

1コリ14:32 預言者に働きかける霊は、預言者の意に服するはずです。

1コリ14:33 神は無秩序の神ではなく、平和の神だからです。聖なる者たちのすべての教会でそうであるように、

1コリ14:34 婦人たちは、教会では黙っていなさい。婦人たちには語る事が許されていません。律法も言うているように、婦人たちは従う者でありなさい。

1コリ14:35 何か知りたいことがあったら、家で自分の夫に聞きなさい。婦人にとって教会の中で発言するのは、恥ずべきことです。

1コリ14:36 それとも、神の言葉はあなたがたから出て来たのでしょうか。あるいは、あなたがたにだけ来たのでしょうか。

1コリ14:37 自分は預言する者であるとか、霊の人であると思っている者がいれば、わたしがここに書いてきたことは主の命令であると認めなさい。

1コリ14:38 それを認めない者は、その人もまた認められないでしょう。

1コリ14:39 わたしの兄弟たち、こういうわけですから、預言することを熱心に求めなさい。そして、異言を語ることを禁じてはなりません。

1コリ14:40 しかし、すべてを適切に、秩序正しく行いなさい。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ15:1 兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受入、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。

1コリ15:2 どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。

1コリ15:3 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、

1コリ15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、

1コリ15:5 ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

1コリ15:6 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたらしく、大部分は今なお生き残っています。

1コリ15:7 次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、

1コリ15:8 そして最後に、月足らずで生れたようなわたしにも現れました。

1コリ15:9 わたしは神の教会を迫害したのですかあ、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。

1コリ15:10 神の恵みによって今日のわたしがいるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く働きました。しかし、働いたのは、実にわたしではなく、わたしと共にある神の恵みなのです。

1コリ15:11 とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。

1コリ15:12 キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。

1コリ15:13 死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずですよ。

1コリ15:14 そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄ですよ。

1コリ15:15 更に、わたしは神の偽証人とさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリストを神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。

1コリ15:16 死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずですよ。

1コリ15:17 そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお罪の中にあることとなります。

1コリ15:18 そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も亡んでしまったわけです。

1コリ15:19 この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者ですよ。

1コリ15:20 しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂とられました。

1コリ15:21 死が一人の人によって来たのだから、死者の復活も一人の人によって来るのです。

1コリ15:22 つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。

1コリ15:23 ただ、一人一人にそれぞれ順序があります。最初にキリスト、次いで、キリストが来られるときに、キリストに属している人たち、

1コリ15:24 次いで、世の終わりが来ます。そのとき、キリストはすべての支配、すべての権威や精力を滅ぼし、父である神に国を引き渡されます。

1コリ15:25 キリストはすべての敵を御自分の足の下に置くまで、国を支配されることになっているからです。

1コリ15:26 最初の敵として、死が滅ぼされます。

1コリ15:27 “神は、すべてをその足の下に服従させた”からです。すべてが服従させられたと言われるとき、すべてをキリストに服従させた方自身が、それに含まれていないことは、明らかですよ。

1コリ15:28 すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためですよ。

1コリ15:29 そうでなければ、死者のために洗礼を受ける人たちは、何をしようとするのか。死者が決して復活しないのなら、なぜ死者のために洗礼など受けるのですか。

1コリ15:30 また、なぜわたしたちはいつも危険を冒しているのですか。

1コリ15:31 兄弟たち、わたしたちの主キリスト・イエスに結ばれてわたしが持つ、あなたがたに対する誇りにかけて

言えば、わたしは日々死んでいます。

1コリ15:32 単に人間的な動機からエフェソで野獣と戦ったとしたら、わたしに何の得があったでしょう。もし、死者が復活しないとしたら、“食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか”ということになります。

1コリ15:33 思い違いをしてはいけません。“悪いつきあいは、良い習慣を台なしにする”のです。

1コリ15:34 正気になって身を正しなさい。罪を冒してはならない。神について何も知らない人がいるからです。わたしがこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。

1コリ15:35 しかし、死者はどんあんにふうに復活するのか、どんな体で来るのか、と聞く者がいるかもしれません。

1コリ15:36 愚かな人だ。あなたがたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。

1コリ15:37 あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。

1コリ15:38 神は、御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。

1コリ15:39 どの肉も同じ肉だというわけではなく、人間の肉、獣の肉、魚の肉と、それぞれ違います。

1コリ15:40 また、天上の体の輝きと地上の体の輝きとは異なっています。

1コリ15:41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝きがあって、それぞれ違いますし、星と星との間の輝きにも違いがあります。

1コリ15:42 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、口内ものに復活し、

1コリ15:43 蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。

1コリ15:44 つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。死ねる命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。

1コリ15:45 “最初の人アダムは命のある生き物となった”と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。

1コリ15:46 最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。

1コリ15:47 最初の人土ででき、地に属する者であり、第二の人は天に属する者です。

1コリ15:48 土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天に属する者たちはすべて、天に属するその人に等しいのです。

1コリ15:49 わたしたちは、土からできたその人の似姿となっているように、天に属するその人の似姿にもなるのです。

1コリ15:50 兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。肉と血は神の国を受け継ぐことはできず、朽ちるものが朽ちるものを受け継ぐことはできません。

1コリ15:51 わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆、眠りにつくわけではありません。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。

1コリ15:52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

1コリ15:53 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります。

1コリ15:54 この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。“死は勝利にのみ込まれた。

1コリ15:55 死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。”

1コリ15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。

1コリ15:57 わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜う神に、感謝しよう。

1コリ15:58 わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずで

す。

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ***:

1コリ16:1 聖なる者たちのための募金については、わたしがガラテヤの諸教会に指示したように、あなたがたも実行しなさい。

1コリ16:2 わたしがそちらに着いてから初めて募金が行われることのないように、週の初めの日にはいつも、各自

収入に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい。

1コリ16:3 そちらに着いたら、あなたがたから証人された人たちに手紙を持たせて、その贈り物を届けにエルサレムに行かせましょう。

1コリ16:4 わたしも行く方がよければ、その人たちはわたしと一緒に行くことになるでしょう。

1コリ16:5 わたしは、マケドニア経由でそちらへ行きます。マケドニア州を通りますから、

1コリ16:6 たぶんあなたがたのところに滞在し、場合によっては、冬を越すことになるかもしれません。そうなれば、次にどこに出かけるにしろ、あなたがたから送り出してもらえましょう。

1コリ16:7 わたしは、今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくない。主が許してくだされば、しばらくあなたがたのところに滞在したいと思っています。

1コリ16:8 しかし、五旬祭まではエフェソに滞在します。

1コリ16:9 わたしの働きのために大きな門が開かれているだけでなく、反対者もたくさんいるからです。

1コリ16:10 テモテがそちらに着いたら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようお世話ください。わたしと同様、彼は主の仕事をしているのです。

1コリ16:11 だれも彼をないがしろにしてはならない。わたしのところに来るときには、安心して来られるように送り出してください。わたしは、彼が兄弟たちと一緒に来るのを、待っているのです。

1コリ16:12 兄弟アポロについては、兄弟たちと一緒にあなたがたのところに行くようにと、しきりに勧めたのですが、彼は今行く意志は全くありません。良い機械が来れば、行くことでしよう。

1コリ16:13 目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。雄々しく、強く生きなさい。

1コリ16:14 何ごとも愛をもって行いなさい。

1コリ16:15 兄弟たち、お願いします。あなたがたも知っているようにステファナの一家は、アカイア州の初穂で、聖なる者たちに対して労を惜しまず世話をしてくれました。

1コリ16:16 どうか、あなたがたもこの人たちや、彼らと一緒に働き、労苦してきたすべての人々に従ってください。

1コリ16:17 ステファナ、フォルトナト、アカイコが来てくれたので、たいへんうれしく思っています。この人たちは、あなたがたのいないときに、代わりを務めてくれました。

1コリ16:18 わたしとあなたがたと元気づけてくれたのです。このような人たちを重んじてください。

1コリ16:19 アジア州の諸教会があなたがたによろしくと言っています。アキラとプリスカが、その家に集まる教会の人々と共に、主においてあなたがたにくれぐれもよろしくとのことです。

1コリ16:20 すべての兄弟があなたがたによろしくと言っています。あなたがたも、聖なる口づけによって互いに挨拶を交わしなさい。

1コリ16:21 わたしパウロが、自分の手で挨拶を記します。

1コリ16:22 主を愛さない者は、神から見捨てられるがいい。マラナ・タ(主よ、来てください)。

1コリ16:23 主上酔の恵みが、あなたがたと共にあるように。

1コリ16:24 わたしの愛が、キリスト・イエスにおいてあなたがた一同と共にあるように。